



TITLE:

マックス、ウェーバーの『論文集』

AUTHOR(S):

山口, 正太郎

CITATION:

山口, 正太郎. マックス、ウェーバーの『論文集』 . 経済論叢 1923, 16(4): 732-732

ISSUE DATE:

1923-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128007>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷六十第

行發日一月四年二十正大

論 叢

納稅義務者としての内藏……………法學博士 神戸 正雄
價値の類型と個性……………法學士 恒藤 恭
サン・シの社會改造哲學及び連帶思想……………文學博士 米田庄太郎
モソンの社會改造哲學及び連帶思想……………法學博士 財部 靜治
基督教文明の發展概論……………法學博士 財部 靜治

時 論

天然資源の國際的開放の原則……………法學博士 戸田 海市
産業組合中央金庫に就て……………法學博士 河田 嗣郎

說 苑

婚姻年齡の統計的研究……………經濟學士 岡崎 文規

雜 錄

失業保險制度の推移……………法學士 一戸 二郎
生産者及び消費者としての露西亞……………經濟學士 藤野 靖
世界的貨幣問題とカッセル教授の學説……………經濟學士 小川福太郎
獨逸高等官の生計費……………經濟學士 岡崎 文規
マックス・ウェーバーの論文集……………法學士 山口正太郎

ウェーバーの科學方法論は西南學派のリツカイトが今學期の演習題目としたもので、自然科學の概念構成には限界があり、其限界外には之と全く性質を異にせる文化科學が成立し得ると云ふ見地に立つ人々にはウェーバーの此論文集は特に興味の深いものである。

收載する處は既にシユモラーの年報、社會科學及社會政策雜誌、ロゴス等に出たもので古い處では一九〇三年から六年に亘つてシユモラー年報上連載され學界の注意を惹いた彼の歴史派經濟學の批評で題して『ロツシャーミクニース、歴史派經濟學の論理的問題』と云ふ。彼は此論文で歴史派經濟學者中、ロツシャーミクニースを撰んで方法論上から其說を批評してある、殊にクニースを論じ不合理性の問題を取扱ふ處、深い思索と哲學上の素養を窺ふことが出来る。

最も新しい處では彼のビュヒャー、ゴツトル、フ井リツボビツチ、シユムペーター、ゾンバルト、スパン、ウ井リッダー等の分擔せる『社會經濟學原理』の第三卷『經濟と社會』の一節『社會學の方法論的基礎』(一九二〇年執筆)で、此中間には屢々經濟學方法論の研究に參考として引用せらるゝ『社會科學及社會政策的認識の客觀性』(一九〇四年、社會科學及社會政策雜誌所載)及び『文化科學的論理の批判的研究』(一九〇五年同誌所載)があり、其の他、『シユタムラーの唯物史觀の克服』、『限界效用說と心理生理的根本原則』、『エネルギー文化學說』、『理論社會學の二三の範疇に就て』、『社會學及び經濟學に於ける價值自由の意義』等、孰れも眞面目なる論策であつて科學の方法論に志すものゝ看過するを得ざるものである、斯く一冊に纏めて出版された事は學界のために慶賀せざるを得ない。

マックス、ウエーバーの

『論文集』

山口 正太郎

深い哲學的素養と鋭い批評眼とをもつて經濟學及び其他の社會科學を解剖し、科學の方法論上に重きをなせるマックス、ウエーバーの論文集が Gesammete Aufsätze zur Wissenschaftstheorie と題し昨年 J. C. B. Mohr から出版された。マックス、